Ⅶ. 名古屋大学と一体化した研究開発

doi: 10.18999/bulsea.65.165

第１章

高大接続研究センター

三小田　博　昭

（1）設置目的

教育発達研究科と教育学部附属学校が協同して設置した「高大接続研究センター」を拠点とし、高校カリキュラム、高大接続プログラム、入試をリンクさせながら、グローバル人材育成のための高大接続システムを研究・開発し普及することを設置目的としている。

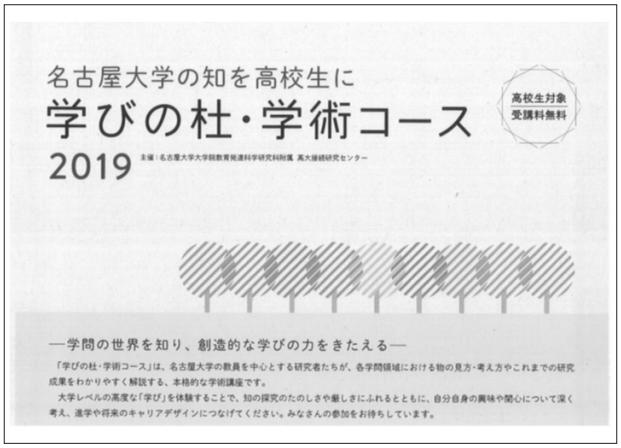
具体的には、以下に示す５点である。

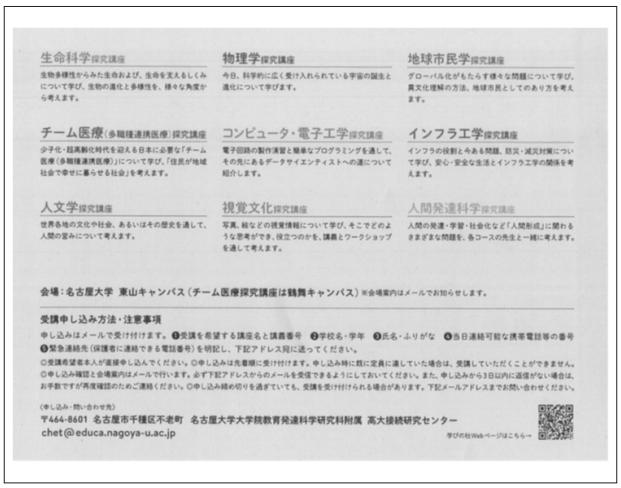
① 高大接続に関する研究
② 高大接続入試にかんする研究
③ 中等教育に関する研究
④ 新たな大学入学者選抜の開発
⑤ 高大接続に関する事業の実施

（2）期待される効果

高大接続のモデルケースの実施と普及

・高大接続型学力を基盤とする大学入学者選抜の開発と評価
・附属学校とのグローバル高大接続教育モデルの実施と開発
・高校生への大学教育等の提供等による大学へのカリキュラム接続
・高大接続プログラムの高度化とAP化による高大接続学力の実証





（3）学びの杜・学術コース2019の実践

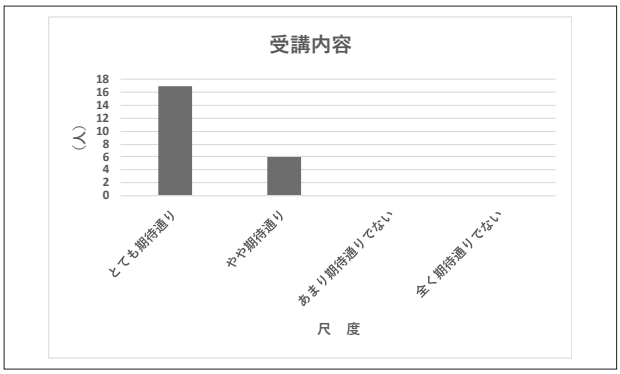
「学びの杜・学術コース」は、名古屋大学の教員を中心として、学問研究の最前線で活躍する研究者たちが、高校生を対象にそれぞれの学問領域における知の探究の成果や方法、スタイルなどについてわかりやすく解説し、知の探究の厳しさと、愉しみを体験してもらうという目的で開設された本格的な「学術的な探究講座」である。2019年度は下記の９講座を展開した。学びの杜は、成果の普及の観点から、本校以外の生徒の受講も受入れている。2019年度は、本講以外で愛知県内から参加した高校生もいた。

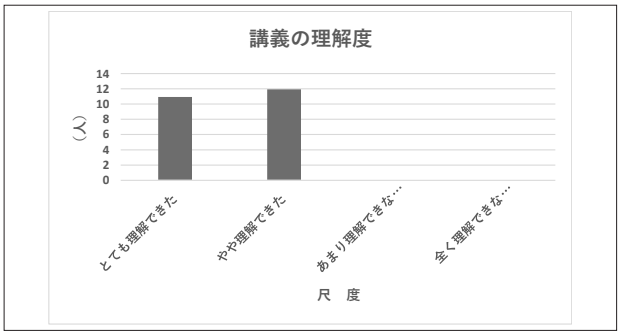
（4）学びの杜・学術コース2019　地球市民学探究講座の実践

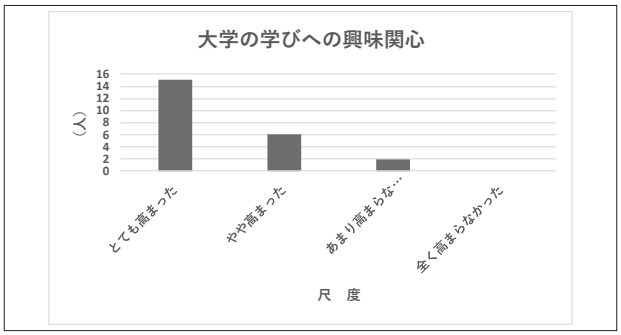
グローバル化の中の様々な問題―偏見、差別、環境、病気、海外労働などーを取上げながら異文化理解の方法や地球市民としてのあり方を考えるために、下記の授業を実施した。

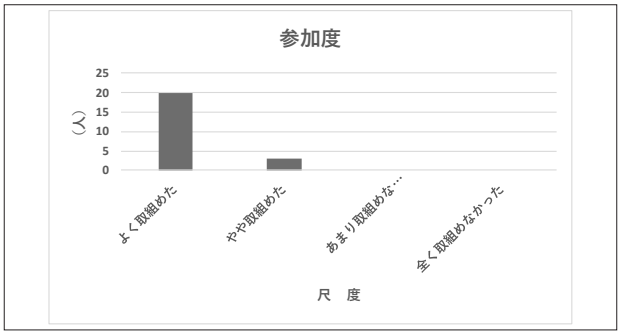
	講義名	担当教員	所属
1	疾病の恐怖：人間と感染創の戦い	福田眞人	名古屋外国語大学
2	日本人の英語教育における学習不安	岩城奈巳	名古屋大学
3	人種偏見・差別の心理学	高井次郎	名古屋大学
4	海外留学のススメ	星野晶成	名古屋大学
5	ジェンダー視点から考える女性教育史	榊原千鶴	名古屋大学
6	東洋の宝石（ヒスイとラピスラズリ）と西洋の宝石（ダイヤモンド）	足立　守	名古屋大学
7	スマホがあれば、新聞はいらない？	辻　篤子	名古屋大学
8	変わる中国、変わらない中国～巨大な隣国の現在を知る～	砂山幸雄	愛知大学
9	「草原の国」モンゴルの歴史と現在	中村真咲	名古屋経済大学
10	人口減少次代のまち	小松　尚	名古屋大学

（5）学びの杜・学術コース2019地球市民学探究講座に参加した生徒事後アンケート結果

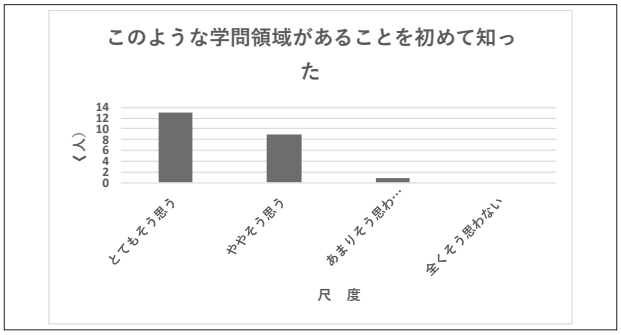


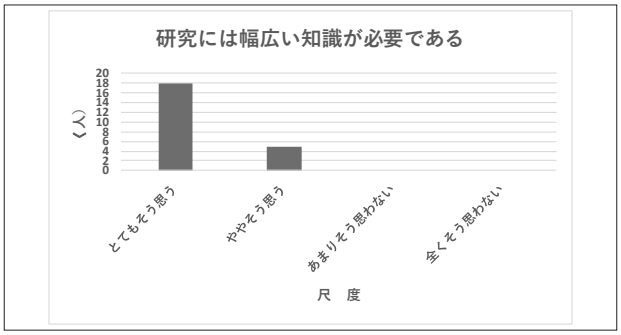


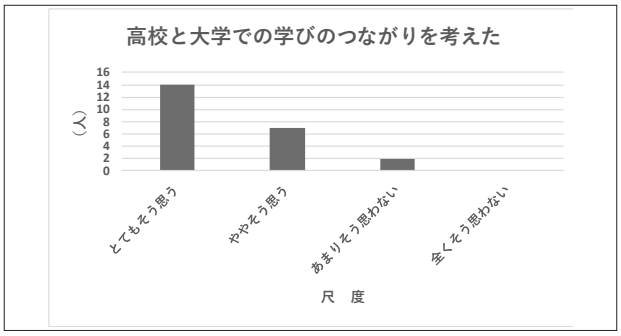


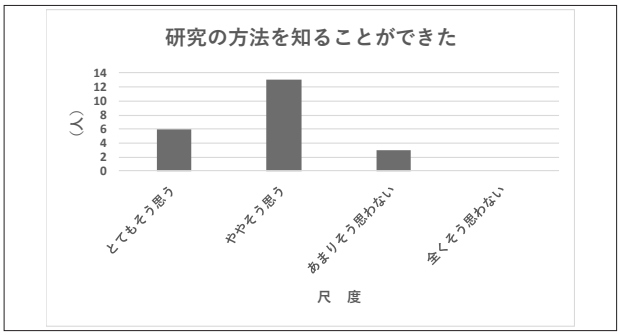


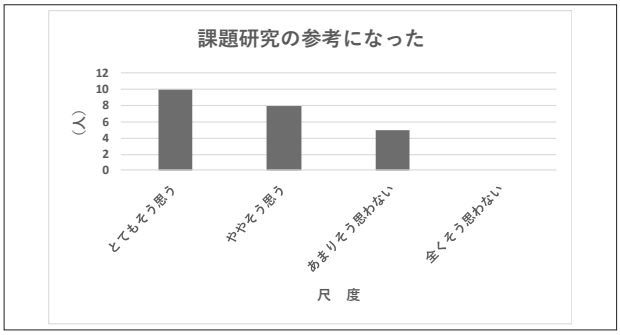
（講座を修了して感じたこと）

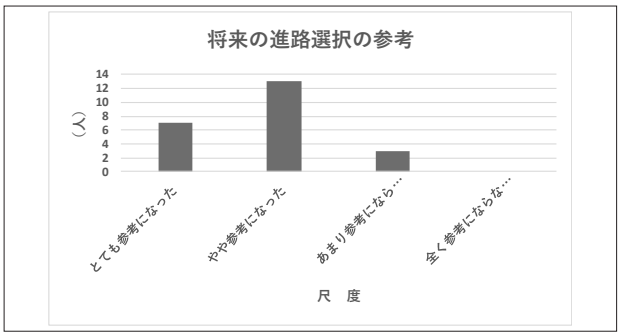






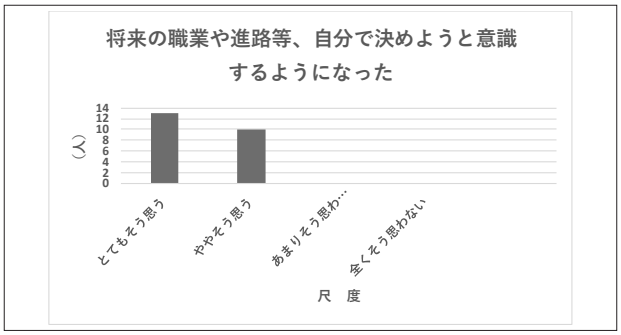


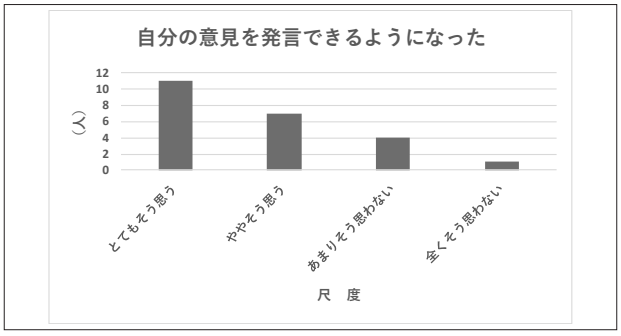


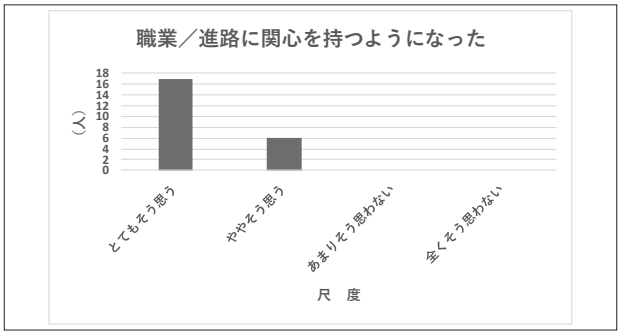


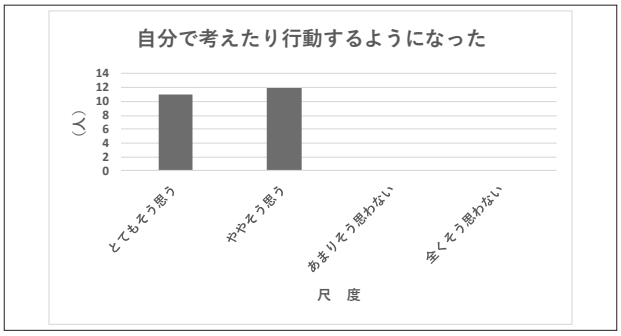
参加した生徒たちが期待していたような講義内容であった。また講義の内容もよく理解できたようである。講師をしてくださる大学教員の方もほぼ毎年同じ方であるため、高校生の学力レベルや理解レベルを考慮している。また内容や資料を毎年少しずつリニューアルして分かりやすい講義を念頭においている。120 分の講義のため、講義の途中に話し合いや発表などを随所に取入れ、アクティブラーニングの形を取っている。そのため生徒たちも集中して講義に参加できている。大学教員も大学での講義のアクティブラーニングの要素を取入れることが求められているため、「学びの杜」での講義はFD（ファカルティー ディベラップメント）の役割も果たしている。高校教育では、教科ごとの授業が行われているため、教科横断的な考え方を生徒たちが持ちにくいという側面がある。「答えのない課題に対する」研究は、多様な知識を統合して考えることが必要である。そのために、「研究には幅広い知識が必要である」と考えることは大切である。「学びの杜」への参加は課題研究を進める参考にもなったようである。

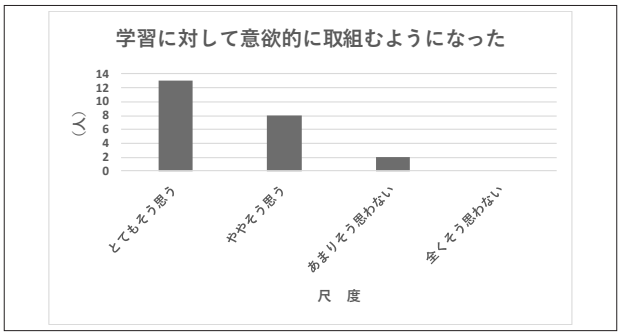
（受講前と受講後の学びの変化）

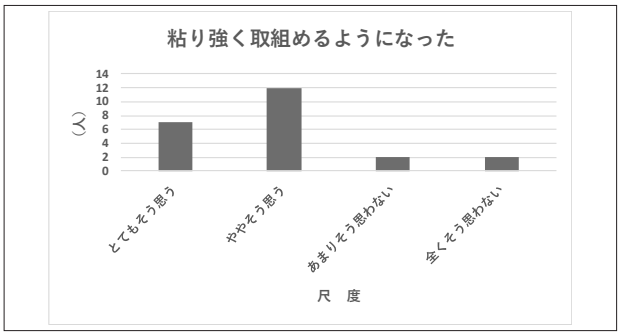












（自由記述アンケート）受講して考えたこと、面白かったこと、疑問に思ったこと

●今まで大学の講義のようなものをG30などで何度か受けてきたが，どれも質問をできずにいた。今回はたくさん質問ができてよかった。自分が将来の夢を考えた時，職業の代表的なものしか思いつかなかったが今回ので視野が広がったと思う。最初の授業が一番印象的でたのしかったです。特にヒルの話がおもしろかった。

●全部の講義が新鮮で面白かったです。時々内容が難しいなと感じたりもしたけれど，楽しく受講できました。これまで興味を持っていなかったことも面白そうだなと感じることができ，多くの分野に関心を持つきっかけとなりました。

●どの話もとても新鮮で，自分では思いつかない考えや発想が知れてとてもいい経験になりました。宝石の話とかモンゴルの話とか，自分が普段あまり接しない世界のことも知れてよかったと思います。

●自分の知らなかったことをたくさん知ることができておもしろかった。例えば英語の発音は国によってクセがあるので，発音の良い悪いは気にしなくてもいいということや，差別や偏見をしているつもりではなくても気がつかないうちに意識していることなどである。実際にきれいな石にさわったことも印象によく残っている。このような機会がないと知れないようなことが知れてよかった。

●中国の少子高齢化についての講座があり，先生は人口減少が深刻だというようにお話されていました。しかし，私はそのとき中国は元々困ってしまうほど人口が多かったのだから，それくらい減った方が良いのではないかと思いました。介護をする人が少ないという問題についても，これからはロボットやAIで補えると思いました。しかし，その時は中国の方に失礼な気がしてそのことは隣の子にしか伝えませんでした。その講座の数回後，今度は人口減少と町のあり方について考えるという講座がありました。その先生は人口が減ることは悪いことではなく，自然なことだから，今後は町を縮小していくことで問題なく暮らせるとお話されました。私が中国の講座でモヤモヤしていたことがこの講座で全てクリアになりました。中国の講座がなければ人口について考えることはなかったし，そこで深く考えたからその後の人口の町の講座がより楽しめて，どちらの先生にも感謝しています。

●一つ一つの講座が専門的でとてもおもしろかったです。講義を聞いてああこういうものもあれなのかなあ，と今まで目を向けてこなかったことにも視野を広げることができました。また，もっと知りたいなと思う分野もあり調べてみようと思いました。

●印象に残ったことは，全講座でいえることですが，一つの物事について深く追究し，疑問をうかべ，何らかの結びつきを考えることが，広い視野，将来を広げていく中で重要なことだと思いました。

●人とのつながりが大切なことが分かった。いろいろな講座があったが，人とのコミュニケーションが大切ということを深く感じられた。モンゴルの講座と，白人と黒人のみられ方の違いの授業がとても興味深かった。

●講義してくださった先生によってスタイルが異なること。グループワークをしてみんなの前で発表することもあれば，ひたすら聞くなど，様々だった。質問して知識を深めることができ，たくさんの経験ができたことがとてもよかったと思う。今回学んだことがいつか活かせると良いと思っている。

●自分の興味あること以外も受講「させられる」と思っていたけど，自分はこんなこと好きだったんだ…と視野を広げれた。また，この先生の話し方引きつけられる！って自分の従来の夢についても関心を高めることができ，すごく良い経験となった。

●どの講義もとても面白く，有意義な時間を過ごすことができました。専門研究をする先生方から直接お話を聞けて，様々な事への興味が深まり，もっと多くの物事に目を向けて自分の視野を広げようと決心しました。

●地球市民学を通して，地球で起きている様々な問題や出来事について知ることができた。又，講義は一方通行なものでなく，周囲の人と話し合ったりする時間があって楽しかった。周囲の人と話し合うことで，自分では気づかなかった新たな視点を発見できたり，自分の持っていた意見をさらに深いものにすることができたと思う。学びの杜を通して話し合って理解を深めることの面白さを知った。

（文責　三小田博昭）